

## 2017年3月実施分 自己評価報告

### 1、自己評価とは何か

○学校評価（自己評価・関係者評価・第三者評価）の目的

- ①組織的・継続的な改善を図る
- ②幼稚園・家庭・地域の連携協力
- ③一定水準の教育の質の保障と向上

○自己評価のねらい

⇒自己評価：「幼稚園がいま目指している方向に向かっているか」を評価する。

### 2、麻生明星幼稚園の理念

#### (1)建学の精神・・・キリスト教精神

麻生明星幼稚園(以下「当園」という。)はキリスト教の正典(CANON)である聖書を通して保育を行います。聖書には人間が生きるべき正しい姿勢や指針がたくさん書かれています。幼稚園生活の中心である礼拝を通して聖書の言葉を聞き、祈りつつ、本当に大切なものを選び取る力をはぐくみます。目標は神と人とに愛される人間の形成です。

#### (2)教育目標

①敬 虔：聖なる強さ・・・神の言葉に聞くこと・祈ることで獲得する強さ

**マタイ 4:4「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」**

人間は食べて、寝て、食べて、寝てを繰り返しているだけでは本当に生きていることにはなりません。元気をだして、まっすぐに生きるためには、大人も子どもも、神さまの言葉である聖書の言葉を聞くことが必要であると信じて保育を行います。たとえば、聖書にはまっすぐに生きるための秘訣がたくさん書かれています。聖書を開くと「7の70倍赦しなさい(マタイ 16:21)」とか「敵を愛しなさい(マタイ 5:44)」とか、そうした方が良いということはわかっているけれども、素直に聞き従うことが難しい言葉とも出会います。そんな時に大切なのが神さまに向かって祈ることです。聖書の神さまに対する祈りは必ず叶えられると聖書は教えています。神様の言葉を真剣に聞き、祈る「敬虔」の心から始まる豊かな生活を目指します。

②奉 仕：家庭や地域と共に生きる喜び

・・・愛をもって自発的に他者のために働くこと

**ヨハネ 3:13-14「これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです」**

聖書で最も大事な教えの一つに「隣人を自分のように愛しなさい(マルコ 12:31)」というものがあります。インドのコルカタにある、今は亡きマザーテレサが設立した施設でボランティア活動を体験した日本人の若者が次のように言っていました。「これまでは自分が幸せならそれでいいと思って生きてきた。でもマザーの施設で働き、人の幸せを手伝うことから始まる幸せもあるのかと思った(2007年9月8日朝日新聞夕刊より)」。人の幸せを手伝うことは勇気がいることです。でも、この隣人を幸せにする幸せに気付くか、気付かないかで人生が変わります。子どもたちの将来を豊かにする「奉仕」の心を育みましょう。

③創造性：苦難を乗り越える力・・・人生を豊かに生き抜くこと力

1 コリント 13:4-8 「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない」

人生は山あり、谷あり。色々なことが起こるものです。イエス様も「世には苦難がある(ヨハネ 16:33)」とはっきり語っています。そうした中で麻生明星幼稚園は「敬虔」、「奉仕」の心から、大変な世の中を生き抜く力である「創造性」が与えられることを信じています。そのことを信じているのは私たちだけではありません。イエス様がお生まれになって2000年以上、どの時代にもイエス様の言葉に元気をいただいて、大変な時代を生き抜いてきた人々が大勢います。このすべての人を元気にする聖書の言葉に裏打ちされた教育目標が当園の誇りです。

### (3)教育方針

#### ①キリスト教保育

教師は聖書をよく学び、園児たちのよい模範として愛の言葉と行いをもって保育にあたります。神と教師に豊かに愛されることで他者を愛する心を育みます。

#### ②家庭との連携

幼児期の育ちには「自律的課題(自分自身の力で課題を乗り越える力)」だけではなく「他律的課題(他者と協力して課題を乗り越える力)」が重要です。保護者と教職員が園児たちの良いモデルとして連携し、よく学び、互いに成長していくことを目指します。

#### ③地域交流

当園は地域の教育力活性化にも強い関心を寄せています。行政・医療・療育・小学校など、様々な施設と連携をとり、子どもたちの成長と安全のために働くことを目指します。また、麻生教会と共にこの町で歴史を重ねてきました。日曜に行われる教会学校や主日礼拝に集う地域の方々と礼拝を通じたよい交流を持つことを大切にしています。

### 3、自己評価の方法について

◎十分な取り組みがなされている

○前向きな取り組みがなされている

△今後一層の努力が必要である

×取り組みについて根本的な見直しが必要である

		評価	成果と課題
教育目標の実現	教育目標「敬虔」 教育目標「奉仕」 教育目標「創造性」	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員各々の生活や働きに「敬虔」と「奉仕」と「創造性」が実現することを目指す。</li> <li>・入園時に配布する重要事項説明書に詳しく記載し、保護者の理解を促している。</li> <li>・毎日の保育の中で、保育者自身が祈りと感謝の心を持って、子ども達と関わっていく。</li> <li>・近年人数が増えてきた預かり保育の子どもたちを視野に入れた教育課程の編成が課題である。</li> </ul>
教育方針の実践	教育方針「キリスト教保育」 教育方針「家庭と幼稚園の協力」 教育方針「地域交流」	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会を対象にして、園長によるキリスト教保育についての講演についての講演を行った。</li> <li>・保護者会主催の講演会や、バザーや運動会などの行事を通じた交流など、保護者会の働きが盛んであった。幼稚園ホームページを利用しての園での子ども達の様子を紹介している。</li> <li>・地域交流喫茶「あまんと」との交流を行った。</li> <li>・バザーを通して教会や地域の方との交流を行った。</li> <li>・近隣の小学校との交流を行った。</li> <li>・麻生町内会「ゆきあかり点灯」に参加した。</li> </ul>
基本的課題	特別支援教育への取り組み	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援の取り組みを幼稚園内のみで抱え込まないようにしたいと考えている。家庭・医療・療育・行政との協力を得る関係づくりを進めつつ、幼稚園としての役割を充実させていきたい。</li> <li>・ひとり一人に合わせた記録や個別指導計画を立て取り組んでいる。11名の常勤職員で毎日30分ほどの時間をとって子どもの様子について話し合いの時間をとっている。特に週に1度の職員会議では支援を必要としている園児の情報を共有し、全職員が理解のもと支援していく。</li> </ul>
	歯と口の健康推進指定校の取り組み	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校から高校までの取り組みと課題について知る機会が得られ、幼稚園固有の取り組みの参考となった。</li> <li>・年長児を対象としたフッ化物洗口の実施、昼食後の歯磨き励行を行った。</li> </ul>
	幼保小連携の取り組み	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小の連携会議に参加をした。</li> <li>・運動会で小学校の体育館を利用し、交流ができた。</li> <li>・小学校生活へのスムーズな移行を考え、今後さらに連携の充実、強化進めていきたい。</li> <li>・幼保小連絡会に出席し、小学校への移行がスムーズに行われるように配慮した。</li> </ul>

	防犯・防災・減災に向けた学び	○ ・例年通り、シェイクアウトへの参加や防災訓練を実施した。
	就業規則について	○ ・今年度より正職員(短時間)の制度を開始し、子育て世代から希望があれば、時間を短縮して就業することを可能とした。皆で協力して、長く務められる職場を目指していきたい。
	計画的な就業について	○ ・時間内に仕事を終えようとしている。 ・仕事内容を整理していくことが課題である。
	施設設備 適切な管理更新について	○ ・新制度に入り、施設整備に資金を割くことができるようになった。どのように整備を進めるかは今後の課題である。
	園内や地域の環境について 省エネ・清掃・エコロジー等の 理解と取り組み	○ ・退勤前に、水道、ストーブ、電気等の確認を行っている。 ・加湿器・オゾン発生器等の点検、掃除を定期的に行っている。
	職員の役割理解・連携について	○ ・お互いの職務を理解し、取り組むことが出来た。が、連絡事項等の周知徹底が図られないことがあった。今後の課題として、話し合いを進めていきたい。
保育のあり方	預かり保育 就業支援と子育て支援	◎ ・手作りおやつ取り組みが継続されている。 ・土曜日の預かり保育を実施している。 ・預かり保育終了時のバス運行を行っている。 ・預かり保育の実施が、保護者の就業支援に限定されることなく、子育て支援の一環として周知されるよう教職員の理解を深めていきたい。 ・各家庭の事情により幼稚園生活が多様化するなか、子どもの心と体の健康にいっそう配慮していきたい。 ・預かり保育担当職員が職員会議へ参加した。情報の共有や円滑な連携を計る。 ・預かり児対象のサッカー教室を行っている。
	安全・衛生	○ ・保育時間中は玄関を原則施錠するという取り組みが定着した。また、子どもが鍵を開けないように玄関扉上部にも鍵を取り付けた。 ・インフルエンザ流行期における保育室の温度湿度の管理を徹底した。 ・インフルエンザの集団感染防止のため、臨時休園を一回実施した。 ・毎日気象警報・インフルエンザ流行情報などについて情報を得て職員朝礼にて共有している。 ・避難訓練の実施。年二回の消防署との訓練のほか、シェイクアウトに参加した。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全園児が麻生球場（広域避難場所）への避難を行った。</li> <li>・年二回の交通安全教室を行い、関心を持つことができた。</li> </ul>
食育と食の安全への配慮	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーの子ども達の情報を職員が共有、理解し、誤食がないように取り組んできた。</li> <li>・これまで週1回の給食（全園児対象）を行ってきたが、さらに希望者のみの給食日を設けた。</li> </ul>
組織としての質向上の取り組み	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在園児数が年々増え続けていることに対応して、教職員の人数も増え、雇用形態が多様化している。副園長・主任・各担任が職員会議に参加できないパート職員へ情報伝達の徹底を進めている。</li> </ul>
保育の計画性 ねらい・取り組み・評価・改善	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画、月案、日案を製作し、クラスの子ども達の成長にあった計画を立て、取り組んでいる。</li> </ul>
幼稚園情報・個人情報に関する 基本的理解と守秘管理 預かった文書・内部情報・データ	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報、書類は保管場所を決め管理している。</li> </ul>